鹿児島城の姿

鹿児島城本丸については，明治初期に撮影された写真が残っていて，鹿児島城のかつての姿を知ることができます。御楼門が写った写真は，復元のための貴重な手がかりとなる重要な参考資料となりました。

旧御本丸御楼門前之景（部分）　玉里島津家資料

鹿児島城遠景（御楼門・御角櫓・多聞櫓）

旧御本丸御座之景一（部分）　玉里島津家資料

麒麟之間・鷺之間・御池
（現在の黎明館内レストラン前の広場あたり）

旧御本丸御座之景二（部分）　玉里島津家資料

御小納戸・二之間・牡丹之間などと御池
（現在の黎明館内レストランのあたり）

常設展示のご案内

鹿児島城本丸御殿模型

黎明館常設展示では，島津斉彬・西郷隆盛・大久保利通などに関する資料をはじめ，鹿児島の歴史を語る数多くの貴重な資料を見ることができます。

お問い合わせ先
鹿児島県歴史・美術センター黎明館
〒892－0853　鹿児島市城山町７番２号
TEL：099－222－5100（代表）
https://www.pref.kagoshima.jp/reimeikan/

薩摩藩島津氏歴代の居城

歩こう！
学ぼう！

大久保利通　島津斉彬　西郷隆盛　ツン　© 鹿児島県

鹿児島(鶴丸)城跡

御楼門建設協議会提供

鹿児島城は，江戸時代から明治の初めまでのおよそ 270 年もの間，薩摩藩主島津氏の居城として，薩摩藩の政治の中心として用いられた城です。別名鶴丸城とも呼ばれています。

本丸は明治 6 (1873) 年の火災で，二之丸は明治 10(1877) 年の西南戦争で焼失してしまいましたが，令和 2 (2020) 年に，147 年ぶりに御楼門が復元されました。

鹿児島城は今でも分かっていないことが多く，まだまだ謎が残っています。いったいどのようなお城だったのか，学んでみましょう。

鹿児島（鶴丸）城の歴史

慶長	6 年 (1601)	島津家久が鹿児島 (鶴丸) 城の築城開始 (1602 年説あり)
慶長	17 年 (1612)	御楼門の柱立
元禄	9 年 (1696)	御楼門等が焼失
宝永	4 年 (1707)	修復工事完了
天保	14 年 (1843)	御楼門修補 (1844 年説あり)
文久	3 年 (1863)	薩英戦争で御楼門に砲弾が着弾
明治	5 年 (1872)	明治天皇行幸
明治	6 年 (1873)	鹿児島城本丸，御楼門焼失
明治	10 年 (1877)	西南戦争で二之丸が焼失
明治	34 年 (1901)	第七高等学校造士館設立
昭和	58 年 (1983)	鹿児島県歴史資料センター黎明館開館 (現鹿児島県歴史･美術センター黎明館)

鹿児島（鶴丸）城の歴史

鹿児島城は，初代薩摩藩主島津家久が，関ヶ原の戦い直後の慶長6（1601）年頃に築城を始め，慶長末（1615）年頃にほぼ完成したとされています。

鹿児島城は背後の山城（城山）とその麓の居館（屋形）に分かれます。山城に続く出入り口は，北（岩崎口），南（大手口），西（新照院口）にありました。敵の攻撃に備えて，現在も黎明館前に残る内堀のほか，南北に外堀も造られました。居館には藩主が暮らす御殿や，藩の政治を担う役所が建ち並んでいました。城下町は海側に造られ，北側の外堀の外には琉球国（現在の沖縄県）と交流するための拠点が整備され，交易拠点となる湊には築地が整備されました。

鹿児島（鶴丸）城の範囲

鹿児島城は，一般的には石垣や堀が残っている黎明館周辺だけがお城だったと思われがちですが，実際は，現在の城山から文化ゾーン，みなと大通り公園のあたりまでを含み，南北約 900 m，東西約 1.2km，面積約 850,000㎡もある大きな城でした。

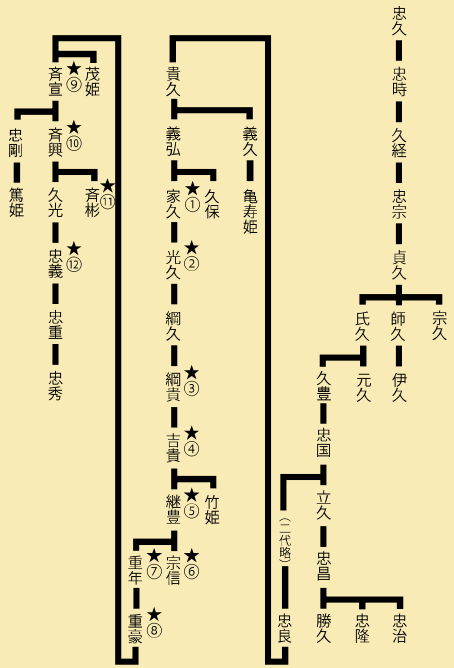
現在，鹿児島市役所前の路面電車が走っている通りは当時海岸線で，お城の近くまで海が来ていました。

築城当初は山の上（城山）の守りが重視されましたが，世の中が平和になってくると，次第に山の上の城よりも山の下の館の方が重視されるようになりました。

島津家とは

島津家は，鎌倉時代はじめから明治維新までおよそ 700 年間，現在の鹿児島県と宮崎県の一部を治めた武家の一族です。戦国時代には一時期九州のほぼ全域を治めました。江戸時代には薩摩藩 72 万石の藩主となりました。これは加賀藩前田家に次ぐ第 2 位の石高で，さらには間接的に琉球王国も支配下に置きました。幕末にはいち早く欧米列強に負けない国づくりを進め，明治維新の原動力となりました。

島津家のように，700 年もの間，同じ所を治め続けたり，これだけ広いエリアを治めたことは珍しいことでした。島津家は鎌倉時代から続く武家として伝統を大切にしました。鹿児島城に天守がないのは，屋形造りという伝統のある城の造り方を採用したためともいわれています。



島津家略系図
※星印（★）は薩摩藩主として鹿児島城を拠点とした人物
番号は藩主になった順番

主な藩主

家久（初代藩主）
関ヶ原の戦いの後，徳川家康との和平交渉にあたりました。鹿児島城を築城しました。

重豪（8代藩主）
城下に「造士館」という藩校（藩士の学校）や，天体観測施設「明時館（天文館）」を建てました。

斉彬（11 代藩主）
幕末，薩摩藩の近代化に努め、磯地区（現尚古集成館周辺）を中心に当時日本最大規模の近代西洋工場群を建設しました（集成館事業）。

重豪は斉彬の曾祖父（ひいおじいさん）で，西洋の学問や文化に興味を持ち，蘭癖大名（らんぺきだいみょう）と呼ばれました。斉彬は重豪にかわいがられ，大きな影響を受けました。
天文館の名は，現在でも県内一の繁華街の地名として残っています。

黎明館のある敷地は，かつて本丸と呼ばれた場所で，藩主が生活する場所や，藩の政治を行う建物などがあった場所です。黎明館の敷地周辺を歩いて，かつてのお城の姿をとどめているものを探してみましょう。

④御角櫓跡
本丸と二之丸の境にあった建物で，発掘調査で見つかった建物の基礎の一部が復元されています。

③麒麟之間跡
藩主が使用した部屋の一つがあった場所で、建物の基礎があった位置を植木で表してあります。この部屋に隣接して能舞台や庭園がありました。

①御楼門橋
築城当初は木の橋でしたが，たびたび傷んだため，文化7(1810)年に，石の橋に架け替えられました。

②御楼門
薩摩藩で最も格式の高い門です。藩主の参勤交代の時や琉球王国の使者が訪れた時など，特別な場合に藩主など限られた人だけが通行を許されました。

黎明館散策マップ

旧御本丸御楼門前之景（部分） 玉里島津家資料

黎明館入口前には，実物大の鯱（しゃち）や鬼瓦のレプリカが展示されています。鯱（しゃち）は西郷さんとほぼ同じ大きさです。

⑧石垣の弾痕
御楼門をくぐった先にある石垣には，明治10（1877）年の西南戦争の時の銃弾や砲弾の痕が無数に残っており，戦闘の激しさが伝わってきます。

⑦北御門跡
御楼門と異なり，日常的に使用していた門の跡です。門の前の堀には土橋が架けられていました。

⑥隅欠
北東は「鬼門」と呼ばれ，ここから災いが入り込むと信じられていました。そのため，災いを避けるためにわざと角を凹ませたものです。

⑤多聞櫓跡
御楼門から北御門にかけての石垣沿いにあった建物で，武器類を保管していました。発掘調査で建物の基礎となった礎石や排水溝が見つかっています。

鹿児島城は，江戸時代前半は山の上（現在の城山）を本丸・二之丸と呼んでいましたが，江戸時代後半になると山の下（現在の黎明館や県立図書館周辺）が本丸・二之丸と呼ばれるようになりました。

城山はあまり調査が進んでおらず，山の上にどのような城があったのかはまだ良く分かっていません。城山の一部は現在，国の天然記念物と史跡に指定されています。

①二之丸曲輪跡
〔現城山公園ドン広場周辺〕

鹿児島城が築城された初期は，現在の城山部分にも建物があり，山の上が本丸・二之丸と呼ばれていました。本丸は現在の城山ホテル鹿児島のあたりになります。

②大手口跡
〔現城山遊歩道照國神社側入口周辺〕

大手とは正面という意味で，城の正面入口にあたる部分を指します。築城当初，鹿児島城は現在の城山が城の中心であったため，ここが城の正面入口でした。

③南泉院跡
〔現照國神社周辺〕

宝永7（1710）年，4代藩主吉貴が徳川家康を祀るために建立した寺です。薩摩藩でも有数の大寺院でした。現在は，斉彬公を祀る照國神社などになっています。

④造士館・演武館跡
〔現鹿児島市中央公園〕

造士館は，安永2（1773）年に8代藩主重豪が設立した藩士の学校（藩校）です。西郷隆盛や大久保利通などもここで学びました。造士館の隣（中央公民館側）には，武術を学ぶ演武館がありました。

⑤二之丸跡
〔県立図書館・市立美術館周辺〕

藩主の子どもや藩主が隠居した後に生活した場所です。御殿は西南戦争で焼失してしまいました。

現在の県立図書館の正門部分は，かつて二之丸御門（のちに矢来門）と呼ばれた門の跡です。

⑪探勝園
〔現探勝園（公園）周辺〕

8代藩主重豪が二之丸内に造った庭園で，初めは千秋園と呼ばれていましたが，10代藩主斉興の時に手が加えられ探勝園と名づけられました。現在は，同じ探勝園の名前で公園となっています。

11代藩主島津斉彬は，鹿児島城本丸と探勝園の間で電信の実験を行い，交信に成功しました。他にも集成館事業に必要な多くの実験を鹿児島城内で行いました。

⑥垂水島津家・宮之城島津家屋敷跡
〔県民交流センター〕

島津家の分家である垂水島津家・宮之城島津家の屋敷がありました。垂水島津家・宮之城島津家は家臣の中でも特に重んじられた家の一つです。

垂水島津家も宮之城島津家も薩摩藩の中で格の高い家柄で，藩主と同じ「丸十字紋」を使うことが許されていました。

⑩名山堀跡
〔現鹿児島市役所前電車通り周辺〕

鹿児島城の城下と築地の間にあった堀です。かつてはこの辺りが海岸線でした。現在は埋められて電車通りになっています。堀より海側の現在のみなと大通り公園周辺には築地がありました。

当時は鹿児島城の近くにまで海が来ていました。海に近かったため，幕末の薩英戦争（薩摩藩とイギリスとの戦争）では，イギリス艦隊から放たれた砲弾が御楼門に命中しました。

⑨吉野橋堀跡
〔現桟橋通り周辺〕

鹿児島城の北側にあった外堀の跡です。堀には吉野橋や新橋という橋が架かっており，橋を渡ったところには番所が置かれて，城下に出入りする人をチェックしました。かつての新橋の橋柱が現在，黎明館の北御門近くに移設されています。

⑧琉球館跡
〔現長田中学校周辺〕

琉球国が薩摩藩との交渉を行う館がありました。琉球国の役人だけでなく，薩摩藩の役人も勤務していました。薩摩藩は琉球国を通して中国とも交易を行いました。

大久保利通の父親は琉球館で役人として勤務していたことがあり，利通も琉球館内の役宅で生活していたことがありました。

薩摩には，当時としては全国的に珍しかった豚肉を食べる文化がありましたが，琉球の影響を受けたと考えられます。利通も豚肉を食べたことを日記に書き残しています。

⑦御厩跡
〔現鹿児島医療センター〕

馬が飼育されたり，馬に関する役所があった場所です。8代藩主重豪が幕府に報告した記録によると，12の建物があり，100頭前後の馬が飼われていました。明治になると私学校が作られました。石垣には西南戦争の時の銃弾の痕が残っています。